

第2章 文型：文の骨組みをとらえる

どんなに長い英文でも、究極的には五文型のどれかに分析される。五文型とは言うまでもないが、次の5つである。

- 第1文型：主語＋動詞 (S + V)
- 第2文型：主語＋動詞＋補語 (S + V + C)
- 第3文型：主語＋動詞＋目的語 (S + V + O)
- 第4文型：主語＋動詞＋目的語₁＋目的語₂ (S + V + O₁ + O₂)
- 第5文型：主語＋動詞＋目的語＋補語 (S + V + O + C)

最近では第1文型と第3文型をさらに2つに分けて、七文型にする説もあり、それは作文の場合には大事な視点ではあるが、本書は読解のための教本なので、この話は割愛する。

基本的に文型はこの5つしかないのなら、どんな英文でもすぐに読みこなせそうなものだが、実際の英文にはこれら以外に修飾語句(M)というものが入り込んできたり、接続詞・関係詞・疑問詞が絡んで文が長くなったりするために、そう一筋縄では解けないことがある。例えば、第3文型の動詞と目的語の間に修飾語句が入り込んでSVMOになってみたり、第5文型の目的語と補語の間に修飾語句が入り込んでSVOMCになったりすることがある。さまざまなケースを無作為に記号で表現してみると次の通りである。

- 第1文型：M + S + V + M + and + V + M
- 第2文型：M + S + V + M + C + M
- 第3文型：When + S + V + M + O, S + V + O + M
- 第4文型：M + S + V + O₁ + O₂ + M
- 第5文型：S + V + O + M + C

英文解釈とは、ひと言で言えば、修飾語句を取り払って、中心軸となる文構造を見つけること、つまり、第何文型かを探ることである。文型の大半は動詞の語法で決まるので、文型を探るとは動詞の語法を把握することでもある。